

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果に係る教育長コメント

令和4年12月23日

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査が、12月23日（金）に公表されました。

全国の公立学校の体力合計点は、令和3年度の結果と比較すると、小学校男女、中学校男子はやや低下し、中学校女子は低下しております。

本県の体力合計点は、令和3年度の結果と比較すると、小学校男子はほぼ同じであり、小学校女子、中学校男女についてはやや下回る結果となっております。しかし、全国の体力合計点が低下していることもあり、昨年度に引き続き、小・中学校男女ともに体力合計点が全国平均を上回っております。

全国順位は、小学校男子が12位、小学校女子が17位（昨年と同順位）、中学校女子が18位となり、それぞれ過去最高でした。中学校男子は26位となっております。

A B C D Eの5段階で評価した体力の総合評価のうち、下位のD E群の割合は、全国的に増加傾向にあり、本県も小学校男子を除きやや増加しています。高知県の第2期教育大綱では、このD E群の割合の減少を目標として掲げていることから、引き続き取組が必要です。

運動習慣等調査では、令和3年度と比較すると、「1週間の総運動時間」が小・中学校男女ともに改善が見られました。

また、「1日4時間以上のスクリーンタイム（平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間）」の割合を全国と比較すると、小学校は男女ともにほぼ同じですが、中学校は男女ともに高くなっています。

学校質問紙調査では、児童・生徒の体力・運動能力向上のための学校全体の目標を設定している割合や、授業以外で全ての児童・生徒の体力・運動能力向上に係る取組を行った割合は、小・中学校いずれも全国平均を上回っております。

新型コロナウイルス感染症の影響をうけ、体を動かす機会が制限された中ではありましたが、各学校において授業改善や体力向上のための工夫をした取組が行われていることが、今回の結果につながっていると考えられます。

県教育委員会としましても、今回の調査結果の分析を進めるとともに、小・中学校9年間を見通した体力・運動能力向上プログラムの活用、外部人材の派遣、指導主事等による学校訪問などの取組を継続して実施し、さらに、市町村教育委員会との連携を一層深めながら、各学校の取組を支援してまいります。